

第 17 回日本在宅医学会大会 シンポジスト 抄録集・ホームページ掲載用原稿

シンポジウムテーマ		公募演題「実践的在宅医療～若き Dr の取り組み～」				
開催日	2015 年 4 月 25 日(土)		時間	15:20-16:50	収容人数	150 名
講師情報	ふりがな	姓	しんや	名	ようへい	
	ご芳名		新屋		洋平	
	ご所属		沖縄県立中部病院地域ケア科			
	部署		緩和ケアチーム		役職	

演題名(80 字以内)

急性期病院が行う急性期在宅医療と、地域医療機関との連携について

ご略歴(300 字以内)

平成 17 年 3 月 自治医科大学医学部卒業
 平成 17 年 4 月 1 日 沖縄県立中部病院 初期臨床研修医
 平成 19 年 4 月 1 日 沖縄県立中部病院 プライマリケアコース 後期研修医
 平成 20 年 4 月 1 日 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属阿嘉診療所
 小規模離島唯一の診療所医師としてプライマリケアに従事。
 平成 25 年 4 月 1 日 沖縄県立中部病院 地域ケア科 緩和ケアチーム
 平成 25 年 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医 指導医
 現在、平成 26 年 9 月 1 日より聖隷三方原病院ホスピス科にて緩和ケア研修中。

講演概要(1000 字以内)

目的
 高齢化の進展とともに死亡数が増加していく我が国において、在宅での看取りを支援する医療が注目されている。沖縄県中部地区の地域中核病院であり急性期病院でもある当院においても、1 ヶ月以内に在宅診療終了が見込まれる患者を対象として 2012 年度より急性期在宅診療部門（地域ケア科）が活動を開始し、在宅看取り支援を行っている。しかし、在宅看取りにおける急性期病院と在宅支援診療所等の地域医療機関との連携については、いまだ模索の段階にある。そこで、当院が在宅看取りを目的に紹介した患者のうち、地域医療機関に紹介した患者と当院地域ケア科に紹介し看取り支援を行った患者の分析を行い、急性期病院と地域医療機関との連携について検討する。

方法
 2010 年 4 月より 2014 年 3 月まで、当院地域連携室が関与し在宅看取りを目的に院外医療機関に紹介した患者を対象とし、診療記録により再入院の有無、患者数の推移を後方視的に調査した。また、2012 年 4 月より 2014 年 3 月までに、当院地域ケア科の医師が訪問診療または往診を実施した患者を対象とし、看取り支援を行った患者について診療記録により患者数の推移、看取り場所について後方視的に調査した。

結果
 2010 年度に当院から院外医療機関に在宅看取りを目的に紹介したのは 7 人、再入院し当院で看取りを行ったのは 1 人であった。2011 年度はそれぞれ 5 人、3 人であった。
 2012 年度に当院が在宅看取り目的に紹介した患者は 38 人であり、そのうち当院地域ケア科が診療を実施したのは 26 人(68.4%)であった。在宅看取り（推定も含む）は 29 人（当科 19 人、65.5%）、再入院し当院で看取りとなったのは 6 人（当科 4 人、66.7%）であった（当科診療実施のうち、他院紹介 2 人、診療継続中 1 人）。2013 年度はそれぞれ 57 人（当科 51 人、89.4%）、48 人（当科 42 人、87.5%）、7 人（当科 7 人、100%）であった（当科診療実施のうち他院紹介 2 人）。

考察
 2010、2011 年度の在宅看取り目的紹介は 7 人及び 5 人であったが、地域ケア科活動開始後は在宅看取り目的に紹介となった総患者数及び在宅看取り数は増加した。また、在宅看取り目的に地域医療機関に紹介した患者は減少したが、そのうち再入院し院内看取りとなる患者は減少した。今後は、再入院する患者の要因を明

らかにし、再入院する見込みの少ない患者を地域医療機関と連携し早期に紹介してゆくことが課題と思われる。

※大会当日は 2014 年度の結果と考察を付加する。